

# 3D内視鏡導入で、安全かつ侵襲が少ない腹腔鏡手術を実施 2016年4月から乳腺専門外来スタート

内科・小児科



3D内視鏡導入により患部の縫合などに効率化



吹き抜けて開放感のある待合ホール



院長 宮本 茂樹

1994年、札幌医科大学卒業。同大第一外科入局。市立室蘭総合病院外科医長、札幌鉄道病院外科医長、札幌道都病院外科部長を経て、2011年4月苫小牧消化器外科院長に就任。日本外科学会専門医。日本消化器外科学会専門医・指導医。日本消化器病学会専門医。日本内視鏡外科学会技術認定医。医学博士。

「信頼と安心の医療」を旗印に、「消化器疾患を中心に幅広く診察し、また気軽に受診できるかかりつけ医としての役割を果たすこと」を診療方針に掲げ、診断から手術まで一貫した医療サービスを提供。3D映像で臓器を立体的に観察できる外科手術用内視鏡システムを道内の医療機関で初めて導入。従来の平面映像では困難だった臓器の奥行きを把握しやすくなり、複雑な手術も安全に進められるのが利点となっている。

当医院では、良性疾患の胆石症や食道がん・胃がん・大腸がんなどの悪性疾患を対象に、「腹腔鏡下手術」を取り入れている。術後の痛みを緩和し、患者の精神的、肉体的負担を軽減できるとして認知されつつあり、同医院の手術対象者の7割を占める。院長は内視鏡手術の指導的立場にあり、道内外でも数少ない日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を持つ。2015年度の内視鏡検査は、胃カメラ1674件、大腸カメラ1165件の実績がある。患者の中には、女性や若年層にも多く見られる肛門疾患で、日常的な悩みを抱えて来院

する人も少なくない。肛門疾患は大腸がんと区別がつきにくいケースもあり、甘くみるのは禁物。大腸がんは増加傾向にあり、早期発見・治療が肝心。早めの受診を勧める。

また、乳がん検診者数もここ数年激増しており、15年度は1329人が検診に訪れている。16年4月には新たに乳腺専門外来を開設。毎週水曜日の午後診を設けており、乳腺疾患に対しても十分な診療体制を整えている。「現在、国内では毎年4万人の女性が乳がんと診断され、そのうち約1万人が亡くなられています。欧米では高齢者の発病が多いのですが、日本では40代から50代の方の発病が多いのが特徴です。自己検診も必要ですが、乳がんは早期に発見され、適切な治療をすることによって良好な経過が期待できます。できるだけ年に1回は検診を受けることをお勧めします」と、宮本院長は話す。

札幌医科大学付属病院第一外科、札幌手稲溪仁会病院、札幌厚生病院と病診連携も積極的に行っている。

内科・外科・消化器内科・消化器外科・内視鏡内科・内視鏡外科・肛門外科・乳腺外科・禁煙外来

医療法人

## 苫小牧消化器外科

苫小牧市北栄町3丁目5番1号 ☎(0144)51-6655  
ホームページ <http://www.tgs-cl.jp>

受付時間／  
月～金／8:30～11:30 13:00～17:00  
第2・4土曜／8:30～11:30  
※水曜午後は乳腺専門外来も行っていきます。  
※第1・3・5金曜午後は検査日のため、諸検査・健康診断・特定健診市の検診以外の受付は行っていません。  
休日／第1・3・5土曜・日・祝日

